

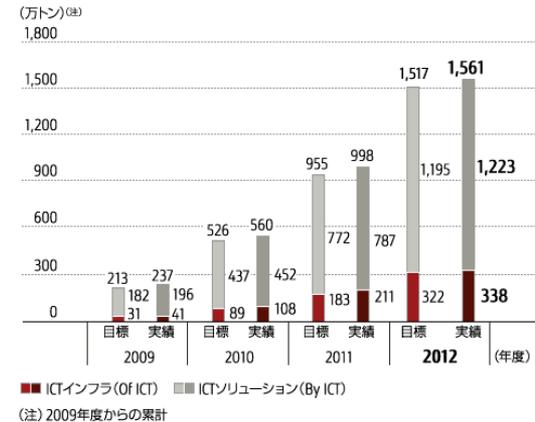
各社の考え方	
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境保全のために、サプライチェーン全体における環境負荷低減の取り組みが重要になっている。 ● 環境負荷に関する情報開示要求が高まっている。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率に優れた製品の開発と、使用時におけるCO₂排出量削減効果をアピールするために活用している。 ● 当社の姿勢を明示し、お取引先からのCO₂排出量削減につながる積極的なご提案を推進するために活用している。 <div style="text-align: right;"> <p>富士通グループにおける地球温暖化防止への取り組み</p> <p>http://img.jp.fujitsu.com/downloads/jp/jcsr/csr/reports/2013/fujitsureport201301.pdf</p> </div>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率に優れた製品がお客様のCO₂排出量削減に貢献することを示すことが可能になる。 ● お客様やCDPからの要求に対し、透明性の高い情報開示が可能になる。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達や物流をはじめとする関連部署が参加するワーキンググループを設置。 ● 活動量データの収集や排出量の算出方法について検討している。

各社の考え方

□ サプライチェーン排出量の削減に向けて

- お取引先に対して、CO₂排出量削減目標を持った取り組みを要請している。また 任意で排出量の報告を求めている。
- 輸送時のCO₂排出量削減に向けて、モーダルシフトの推進や配送ルート最適化、共同配送などのグリーン物流活動に積極的に取り組んでいる。
- グリーンICTの提供を通じて環境負荷低減に貢献するプロジェクト「Green Policy Innovation」を推進し、お客様や社会に対して2009年度から2012年度までの4年間で累計1,561万tのCO₂削減に貢献。
新たに2013年度から2015年度までの3年間で累計2,600万t以上の削減貢献を目標に設定。

グリーンICTによるCO₂排出量の削減貢献目標と実績



<http://img.jp.fujitsu.com/downloads/jp/jcsr/csr/reports/2013/fujitsureport201301.pdf>

□ サプライチェーン排出量算定の課題

- 積み上げ方式による排出量データの収集が困難であるため、信頼できる排出原単位データベースを活用することになる。
- 国内はもとより、サプライチェーンのグローバル化により海外の活動も評価できる排出原単位データベースの整備が必要になる。

□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- CO₂排出量が比較的少ないカテゴリに対して新たに手間やコストをかけるのではなく、比較的大きいカテゴリから算出することが重要である。

以下のリストは、環境省の「H22年度サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量算定方法調査検討事業」においてScope3排出量の算定に関するケーススタディを実施した当時の情報です。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の調達量	● 当社が作成した原単位
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 3EIDベースの金額当たり原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気・蒸気のエネルギー使用量	● エネルギー量あたり原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● 燃料あたり原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 主要製品使用時のエネルギー消費量 (各製品種類毎に想定使用時間を定め、消費電力と出荷台数から算出)	● エネルギー(電力)の原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● PC、ディスプレイの出荷台数	● 製品別原単位